

私のバレエ日記

バレエができる幸せに感謝 妊娠・出産を終えて

貝谷バレエ団員・主婦 藤井由乃

大きな転機

バレエに出会ったのは4歳の頃。バレエファンだった母に連れられて観に行った『白鳥の湖』は、一瞬にして私をバレエの虜にしてしまった。そこからはバレリーナという夢に向かってまっしぐら。大学生になると舞台も増え、本格的にレッスンをとりハーサルに追われるようになった。そして大学院卒業後はそこに教えるも加わり、私の生活はバレエ一色となった。その当時はバレエがすべて。しかし、その幸せについてじっくり考えることなどなかった。そんな私に訪れた最大の転機、それが妊娠・出産である。

不安から喜びへ

結婚して1年、望んで妊娠したものの、その頃は公演でソリストが付き始め、舞台が楽しくて仕方がなかった時。しかも、初期はつわりに加えて出血もあった為、レッスンに行くことも

できず、子供が生まれてくる喜びとはうらはらに、もうバレエはできないのではないかと悩んでばかりいた。しかし、安定期に入ってから週2回のレッスンを再開すると、その不安も和らいでいった。母親が楽しいと自分も楽しくなるのか、ピアノに合わせてバタバタと動き出すお腹の赤ちゃん。まるで一緒に踊っているようで、生まれてからの生活が楽しみに思えてきたからである。

そして平成13年7月26日、いよいよ出産の日を迎えた。1週間前までレッスンを続けた甲斐あって、3時間のスピード出産。出産直前にあっても、ベッドから分娩台にジュテで飛び移り、先生や助産婦さんと笑い合えるほど体力もあった。産後の回復が早く、睡眠不足に耐えられたのも、バレエで身体を鍛えてきたお陰だと思ふ。

念願のバレエ再開

レッスンを再開したのは産後1ヶ月。夫が息

貝谷の白鳥はとてドラマティックで、私が最も好きな作品。しかも主役は憧れの下村由理恵さん。息子を始め家族を巻き込んでいることや、リハーサルを休んで度々迷惑をかけていることに心を痛めることも多かったが、あのようにな大きな舞台に立つことができ、本当に幸せだった。

成長した私

振り返ってみると、私は出産によって大きく成長できたように思う。

第一に、自分というものをじっくりと、客観

的に見つめることができた。バレエを始め、レッスンを学んだことを踊りにつなげ、そして舞台に立つ。そのプロセスを1からやり直すことによって、自分の身体を知り、バレエを愛する自分の心を知った。こんな経験は、出産以外では決してできなかっただろう。

そして第二に、バレエは一人ではできないということを身をもって知ることができた。私のことを十分に理解し、いつも前向きで正しい方向へ私を導いてくれる夫、そして私のわがままを受け入れて協力してくれる母たち、また、プランクがあるにもかかわらず、私を必要としてくれた先生方。



すべての人のサポートがなければバレエは再開できなかった。子供の頃からバレエを続けてこられたのも、父や母が愛情をもって与えてくれた環境があったこそだという、当たり前のことにも気付かされた。環境、そして周囲への感謝

抜きの為にと、週に1回の子守りを義母に頼んでくれたのである。義母も快く引き受けてくれた。始めは身体を引き上げようにもどこにも力が入らず、バーにつかまらなると一番で立ってられない状態。妊娠中はお腹がつれて後ろに反ったりアラバスクをすることはできなかった。しかし、背筋は鋼鉄のように固くなっていった。しかし、不思議と落ちこむことはなかった。週に1度のレッスンは、息子の与えてくれた大切な楽しみであり、どうすればできるのかを一つ一つ考えながらレッスンをすることによって、自分の身体が少しずつわかっていく実感は、新鮮な喜びだったからである。

毎日当たり前のようにレッスンをしていた頃は、O脚内股にコンプレックスを感じながらも、それを克服するために1回1回のレッスンをこまめに大切にすることはなかっただろう。

平成14年9月、幸運にも舞台に立つチャンスが訪れた。友人の主催するスタジオの発表会で、けがをした人の代わりに「眠りの宝石」を踊ることになったのだ。久々のトウシューズでの踊りはひどいものだったが、衣装を着てメイクをし、ライトの中で踊った1分間は、すばらしいひとときだった。私は舞台が本当に好きなんだと痛感した。その気持ちを胸に、11月には貝谷バレエ団に復帰し、今年1月には恩師である貝谷八百子先生の13回忌記念公演『白鳥の湖』全幕に出演することができた。

の気持ち素直に持てるようになったことは、出産による成長の賜物だろう。

そして

これから……

私にはバレエより大切な家族ができた。しかし、欲張りな私はバレエをやめることはできない。子育て中に、仕事にならないバレエをするのは、あくまでも私のわがままではないが、もう少し甘えさせてもらおうと思う。私がバレエに打ちこむ姿を見て、子供がまた何物にも替え難い何かを見つけ、努力を楽しめる人間になってくれることを祈るばかりである。

現在は2人目を妊娠中。しかし1人目の時のように戸惑うことはない。また舞台に立てる日、そして念願のお教室を開く日を夢見て、感謝の気持ちを忘れず、また一からバレエを楽しみたいと思う。



藤井由乃(ふじい ゆの)

1973年、東京生まれ。4歳でバレエを始め、12歳の時に貝谷芸術学院バレエ科に入学。14歳で初舞台を踏み、その後ほぼすべてのバレエ団公演に出演。早稲田大学大学院文学研究科修士過程修了後、貝谷芸術専門学校の講師を経て、結婚、出産。